研究指定校名　：　米子市立淀江中学校

１．学校の概要

学校名	米子市立淀江中学校
学級数	１１学級（うち特別支援学級：２学級）
児童生徒数	全生徒数：２４１人（平成３１年１月２３日現在）
ＵＲＬ	http://www.torikyo.ed.jp/yodoe-j/

２．調査研究のテーマ

（１）調査研究のテーマ

自他を大切にし、互いに学び、高め合う生徒の育成
～豊かな人間関係の構築、自尊感情の育成～

（２）調査研究のテーマを設定した背景

淀江中学校区では、平成２８年度に「淀江中学校区社会・学校、人権・同和教育関係者連絡協議会」において、校区の児童・生徒のよさや課題について見つめ直し、校区としてどのような児童・生徒を育てたいか話合いを行った。各関係者の思いや願いを受け、校区の研究主題を「ふるさと淀江を愛し、確かな人権感覚を身につけ、支え合い、高め合える子どもの育成～お互いの顔が見える校区連携を通して～」と設定し、保育園・小学校・中学校だけでなく、地域も一体となって共通認識のもと人権教育の推進に取り組んでいる。

本校は、鳥取県教育委員会より平成２８・２９年度に「情報モラル教育推進事業」を受けており、研究主題「自他を大切にし、互いに学び、高め合う生徒の育成」のもと、小学校と連携しながら人権教育の視点からの「情報モラル」の研究推進に取り組んできた。授業だけでなく短学活などにおいても「見て聴く」の意識化を図ることを全教職員の共通認識として取組を重ねる中で「見て聴く」の意識は高まりつつあるものの、「見て聴く」の根本となる「相手に伝える力」に課題があることが改めて明らかとなった。

また、一昨年度、本校の人権教育の取組の見直しのため、生徒のよさと課題を全教職員で見つめ直したところ、本校は単一校区のため「人間関係の固定化・硬直化」「人間関係の固定化だからこそ、固定観念から抜け出せない」「自分の言葉で表現するのが苦手」「自尊感情が低く指示待ちが多い」などの課題が挙げられた。

そこで、これまでの研究主題を継続しつつ、それらの課題を改善するために副題を「豊かな人間関係の構築・自尊感情の育成」とし研究を進めることとし、その具体的なアプローチを鳥取県が進める３つの側面（「人権についての教育」「人権としての教育」「人権が尊重される教育」）から進めることとした。

全学年の全教科・領域において毎時間の授業の中に、意図的に人権教育の視点を取り入れた学習を積み重ねることで、確かな学力を身につけるとともに、思考・判断・表現する力を伸ばし、人権教育で大切にしなければならない個人の進路保障にもつながると考えた。

研究を進めるに当たっては「人権教育の指導法等の在り方について ［第三次とりまとめ］」（平成２０年 文部科学省）で示されている人権が尊重される授業づくりの視点を参考にしながら、その基盤となる学習規律の徹底や基本的生活習慣の定着についても保護者や地域と連携しながら取り組んできた。

（３）取り組んだ人権課題（該当するものに〇印。複数選択可）

①女性	
②子供	〇
③高齢者	
④障害者	〇

⑤同和問題	○
⑥アイヌの人々	
⑦外国人	○
⑧HIV 感染者・ハンセン病患者等	○
⑨刑を終えて出所した人	
⑩犯罪被害者等	
⑪インターネットによる人権侵害	○
⑫北朝鮮当局による拉致問題等	
⑬いじめ	○
⑭性的指向、性自認	
⑮その他（　　）	

３．調査研究の推進体制

４．調査研究の内容等

（１）調査研究の内容等

(現状の分析と課題)

本校は、単一校区のため固定観念にとらわれた固定的人間関係や他者に流されやすく本音で関われない希薄な人間関係しか築けない生徒が多くみられる。また自分の思いや考えを相手に伝えることや自分の言葉で伝わりやすく表現することが苦手な生徒も多く、主体性に欠け他人任せの生徒が多い。昨年度の「人権意識アンケート（米子市教育委員会作成）」においても、「自分自身がまわりの友達を差別せず、大切にしている」と感じている生徒が約５２％であるのに対し「自分自身がまわりの友達から差別されず、大切にされている」と感じている生徒は約４４％であり「わからない」と答えた生徒は約１８％もおり、自尊感情の低さも課題と言える。また、全国学力・学習状況調査の結果では、「自分によいところがある」という問いに対して肯定的な回答をした生徒は

平成２８年度　本校５０．７％　（全国６９．３％）
平成２９年度　本校６０．５％　（全国７０．７％）
平成３０年度　本校７５．０％　（全国７８．８％）

となっており、肯定的な回答が少しずつ増えてはいるものの、まだ全国平均をずいぶん下回っている。このことから、日常的に人権教育の視点からの関わりを取り入れ、自他の大切さを意識し実感させることで豊かな人間関係を築き自尊感情を高めていくことが本校の重要な課題であると考えた。

(調査研究の内容)

【研究の仮説】

《仮説１》全学年の全教科・領域の授業の中に、意図的に人権教育の視点を取り入れた学習を積み重ねることにより、生徒一人ひとりの自尊感情が高まるともに、豊かな人間関係を築くことができるだろう。

《仮説２》「見て聴く」「伝わりやすく表現する」授業を日常化していくことで、日常生活の場においても自他を大切にし、認め合う集団を育てることができるだろう。

《仮説３》基本的生活習慣の定着や学習規律の徹底を図ることで、互いに学び高め合おうとする生徒が育つだろう。

《仮説４》人権学習において『普遍的な視点』と『個別的な視点』とが往還することで、人権感覚が高まり、知識だけでなく実践的な意欲や態度を育てることができるだろう。

【調査研究の内容】

①学力向上部会

「人権が尊重される授業づくり」について研究を進める。

＊研究のよりどころを「人権教育の指導法等の在り方について［第三次とりまとめ］」（平成２０年 文部科学省）とする。

○基礎・基本の定着　　○学び合いを生かした授業づくり

○ＩＣＴを活用した授業づくり　　○ユニバーサルデザインの授業づくり

○学習規律の徹底

②人権教育部会

「確かな人権感覚および自尊感情の育成」について研究を進める。

○思いを語り、受容・共感をもてる人権学習の推進

○人権教育及び情報モラル教育の充実

○年間計画に沿った課題別人権学習の研究、実践

○人権弁論を通した思いの共有と人権意識の育成

③生活指導部会

「基本的な生活習慣の定着・心身の健全育成」「豊かな人間関係の構築」「人権の視点に立った校内環境・教室環境づくり」について研究を進める。

○生活習慣の改善（メディアとのつきあい方・アンケートの実施など）

○家庭学習の習慣化　　○伝統文化の継承

○小中連携学校づくりプロジェクト（児童会・生徒会交流）

○体験を通した仲間づくり（学校行事など）

（実施方法・検証・評価）

【実施方法】

◆人権が尊重される授業づくり

「人権教育の指導方法等の在り方について［第三次とりまとめ］」に例示してある「人権が尊重される授業づくりの視点例」を参考にして、下記の「人権が尊重された授業づくりの視点」を作成し、全学年の全教科・領域における授業に、意図的に取り入れ、授業改善を行った。

視点	ねらい	番号（校内用）
自己存在感を持たせる支援を工夫する。（a）	「授業に参加している」という実感を持たせる。	a－1
	「自分が必要とされている」という実感を持たせる。	a－2
	教師自身が一人一人を大切にする姿勢を示す。	a－3
共感的人間関係を育成する支援を工夫する。（b）	「自分が受け入れられている」と実感できる雰囲気を作る。	b－1
	「共に学び合う仲間だ」と実感できる雰囲気を作る。	b－2
自己選択・決定の場を工夫して設定する。（c）	学習課題や計画を選択する機会を提供する。	c－1
	学習内容、学習教材を選択する機会を提供する。	c－2
	学習方法を選択する機会を提供する。	c－3
	表現方法を選択する機会を提供する。	c－4
	学習形態や場を選択する機会を提供する。	c－5
	振り返りの方法を選択し、互いの学びを交流する機会を提供する。	c－6

◆自尊感情の育成・豊かな人間関係づくり

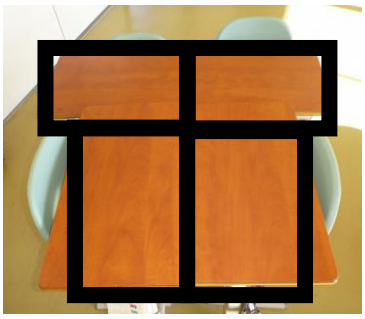
○全員リーダー制

班ごとに「班長」「クリーンリーダー」「スタディリーダー」

「集配リーダー」（５人班の場合は保健リーダーも含む）と全員に役割を与え、一人一人が自覚と責任を持って活躍する場を設けた。班長だけが話し合いの中心になるのではなく、時にはスタディリーダーが意見をまとめるなど工夫した。

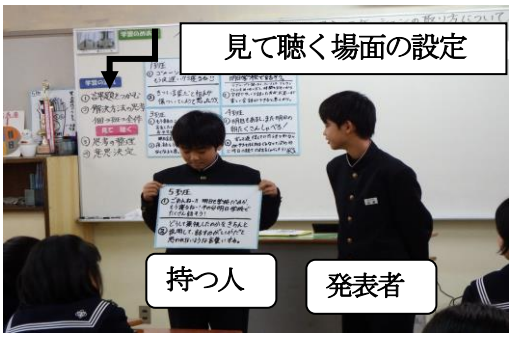
○班編成制及び班の形の工夫

話合いに適した４人班を基本として、生活班と学習班を同じメンバーで構成するように班づくりをした。また、班長会を行い、担任と一緒に班員を決める方式で班編成している。座席も男女市松模様になるよう工夫し、班でのクロストークが進むよう配慮した。班の形も右図のように「T字」にし、より生徒同士の距離を縮め、活発な話し合い活動になるよう取り組んだ。



○「見て聴く」の取組（授業・短学活）

発表者側に体を向け、必ず発表を「見て聴く」よう短学活だけでなく、授業中も意識して取り組んだ。また、発表の際も「見て聴く」を意識し、発表者がどう発表したらよいかを工夫しながら発表させた。また、授業時には教師が「学習の流れ」を説明する中で伝え、意識付けを行った。



○行事での縦割り活動

生徒会を中心として体育祭や文化祭で縦割り活動を行った。３年生はリーダーとして、下級生は１、２年後の自分たちの姿を想像して、お互いに良い関わりができるよう教員とリーダーとの事前打合せも密に行った。

◆人権問題の解決へ向けて

○年間指導計画に沿った課題別人権学習の研究、実践

１１月の米子市人権教育研究発表会では、１年生「インターネットでの適切なコミュニケーション」２年生「全国水平社宣言に学ぶ」、３年生「よりよい生き方を求めて～結婚差別を通して～」と題して授業を行った。それぞれの学年が工夫をし、１年生ではＩＣＴを活用した授業、２年生では紙芝居プレゼン法（ＫＰ法）を取り入れた授業、３年生ではワールドカフェ形式を取り入れた授業を行い、生徒同士がより関わり合える、深め合える授業の展開を目指した。また、２・３年生は「公正・公平、社会正義」の項目で授業を行いねらいに迫ったが、それぞれの題材を通して、生徒にとって身近な「いじめ問題」に置き換える等、自分事として考えられるよう展開した。

○差別解消へ向け取り組んでいる方との出会い

日々の学習に加え、講演会で実体験を聞く機会を多く持つことで、他人事ではなく自分事として考えられるよう単元構成を工夫し取り組んだ。

【検証・評価】

「米子市人権意識調査」の中でも特に特徴的な質問項目「あなたは自分自身がまわりの友達から差別されず、大切にされていると思いますか？」「あなたは自分自身がまわりの友達を差別せず、大切にしていると思いますか？」について分析を行った。〈表１〉からもわかるように「そう思う」「だいたいそう思う」という肯定的な回答の値が中学校入学前と卒業前とを比較すれば、７．１％増加した。その中でもこの１年間の取組で５．１％増加したことは、今年度の取組の成果だと考える。【実施方法】の取組にプラスして「誰もが安心して過ごせる学級・学校づくりをする取組（居場所づくり・雰囲気作り・環境づくり）」「自尊感情を高める取組（評価言の積み重ね・人として感謝を伝える・良き姿や行動の紹介や褒める）」に力を入れ取り組んだことも、その相乗効果としてこのような結果になったと考える。学校全体として見ると、〈表２〉から「自分が大切にされている」（約９４％）の割合と「友達を大切にしている」（約９６％）の割合との差が今年度は２％のとなった。本研究を通して「自他の人権を尊重しようとする

意識・意欲・態度」が向上した結果と考える。

〈表１〉

《現３年生の回答を経年比較した表》

問題６	回答	小６	中１	中２	中３
あなたは自分自身がまわりの友達から差別されず，大切にされていると思いますか？	そう思う	48.2	50	39.5	51.2
	だいたいそう思う	38.6	36.3	49.3	42.7
	あまりそう思わない	0	0	1.2	4.9
	まったく思わない	1.2	0	0	1.2
	わからない	10.8	13.8	8.6	
	その他	1.2	0	0	1.2
問題７	回答	小６	中１	中２	中３
あなたは自分自身がまわりの友達を差別せず大切にしていると思いますか？	そう思う	49.4	53.8	53	59.8
	だいたいそう思う	43.4	38.8	41.9	37.8
	あまりそう思わない	3.6	5	2.4	1.2
	まったく思わない	0	2.5	1.2	1.2
	わからない	3.6			
	その他	0	0	0	0.0

〈表２〉

《学校全体の生徒の回答を学年比較した表》

問題６	回答	中１	中２	中３
あなたは自分自身がまわりの友達から差別されず，大切にされていると思いますか？	そう思う	61.7	46.9	51.2
	だいたいそう思う	35.0	44.4	42.7
	あまりそう思わない	1.7	2.5	4.9
	まったく思わない	1.7	3.7	1.2
	わからない			
	その他	0.0	2.5	1.2
問題７	回答	中１	中２	中３
あなたは自分自身がまわりの友達を差別せず大切にしていると思いますか？	そう思う	63.3	40.7	59.8
	だいたいそう思う	35.0	51.9	37.8
	あまりそう思わない	1.7	2.5	1.2
	まったく思わない	0.0	2.5	1.2
	わからない			
	その他	0.0	2.5	0.0

成果として、生徒の姿では、

・「見て聴く」効果により、話し合いの場面など、より良い人間関係づくりができるようになってきた。

・一人ひとりが自己の役割を自覚し、活躍する場面が見られるようになった。

ように、自尊感情の高まりを感じる場面を多く確認することができた。

教師の姿では、

・学校体制で一つの目標に向かって、一人ひとりが意識し、取り組むことができた。

・様々な人権課題について、職員室内での意見交換が活発になり、人権感覚を高め合うことができた。

ように、教職員対象の学校評価における項目の「ユニバーサルデザインの授業づくりに努めているか」「教育目標に沿った班活動・仲間づくりを基盤にした学年・学級経営はできたか」「問題行動やいじめ、不登校の未然防止に努めることができたか」という生徒の自尊感情の高まりに関係ある項目で、肯定的評価がそれぞれ２７％、１９％、１８％増えた。（Ｈ２８年度からＨ３０年度での変容）

課題として、

・「見て聴く」の基盤となる「伝える力」を更に高めていく必要である。

・「発表の声の大きさが小さい」「自分なりの説明をすることができない」という姿が見られる。

普段の授業での「まとめ」「振り返り」の時間を増やし、表現力を高める練習が必要であると感じた。また、班編成においては、話し合いに適した４人班を基本としながらも、５人班になってしまう学年もあり、５人班でも良い話し合い方法がないか全職員で探す必要があると感じた。

（２）実施結果

時　期	内　容	備　考
４月１７日	研究推進委員会	参加者７人
４月１７日	全国学力･学習状況調査	生徒（３年）
４月２４日	研究職員会・研究部会・学年会・担任会	全教職員
４月２７日	第１回「人権教育研究推進事業」連絡協議会	参加者２人
５月　９日	研究推進委員会	参加者７人
５月１４日	研究職員会・研究部会・学年会	全教職員
６月２０日	研究推進委員会	参加者７人
６月２７日	研究職員会・研究部会・学年会	全教職員
７月　３日	情報モラルアンケート	全校保護者・生徒

７月１１日	校内授業研究会（人権学習） 【指導助言】　森田泰弘　係長（県教育委員会人権教育課） 安部裕城　指導主事（県教育委員会西部教育局） 竹本周平　課長補佐（米子市教育委員会）	全教職員
７月２０日	研究推進委員会	参加者７人
７月３０日	研究職員会・研究部会・学年会	全教職員
７月～９月	学年会（指導案検討） 【指導助言】　森田泰弘　係長（県教育委員会人権教育課） 安部裕城　指導主事（県教育委員会西部教育局） 竹本周平　課長補佐（米子市教育委員会） 村田誠（箕蚊屋小学校長）	全教職員
９月１２日	人権講演会（講師１名） 森田泰弘　係長（県教育委員会人権教育課） 西垣卓宏　指導主事（県教育委員会人権教育課）	全教職員・全校生徒
９月１９日	研究推進委員会	参加者７人
９月２６日	研究職員会・研究部会・学年会	全教職員
１０月９日	ハンセン病問題学習会 影山知也　課長（県教育委員会人権教育課） 森田泰弘　係長（県教育委員会人権教育課）	生徒（１年）
１０月１０日	研究推進委員会	参加者７人
１０月１７日	研究職員会・研究部会・学年会	全教職員
１０月２５日	米子市研究集会打合せ会 森田泰弘　係長（県教育委員会人権教育課） 西垣卓宏　指導主事（県教育委員会人権教育課）	参加者１人
１１月９日	米子市中学校区人権教育研究発表会事前研究会 森田泰弘　係長（県教育委員会人権教育課）	全教職員
１１月２２日	米子市中学校区人権教育研究発表会（全学級公開） 成果刊行物配布 【指導助言】　森田泰弘　係長（県教育委員会人権教育課） 安部裕城　指導主事（県教育委員会西部教育局） 竹本周平　課長補佐（米子市教育委員会） 村田誠（箕蚊屋小学校長）	全教職員・全校生徒 １３０冊 配布先：市内中学校、関係機関、参加者、教育委員会
１２月　５日	研究推進委員会	参加者７人
１２月１２日	研究職員会・研究部会・学年会	全教職員
１２月１４日	学習状況アンケート	全校生徒
１２月２１日	学校評価アンケート実施	全校保護者
１月１７日	米子市人権・同和教育研究集会（第２・３分科会で発表） 【指導助言】　森田泰弘　係長（県教育委員会人権教育課） 竹本周平　課長補佐（米子市教育委員会） 乗本学　主幹（米子市教育委員会）	参加者５人
１月２３日	研究推進委員会	参加者７人
１月３０日	研究職員会・研究部会・学年会	全教職員
２月１４日	第２回「人権教育研究推進事業」連絡協議会 人権教育研究推進事業報告会 人権学習に関する意識調査実施	参加者１人 全校生徒
３月	研究推進委員会 研究職員会・学年会	参加者７人 全教職員